

2025年度 埼玉医科大学短期大学
看護学科 総合型選抜Ⅰ期
小論文

無断転載・複製を禁ず

次の文章を読み、内容を 150 字以内に要約しなさい。また、この文章に対するあなたの意見を 300 字以内で述べなさい。

学校を出て就職し、仕事もひととおり覚えてしまうと、もう人から学ぶことはなくなってしまうと思うかもしれない。でも本当は、勉強や仕事を教えてくれる人だけでなく、すべての人との付き合いが学びにつながっているんです。誰とどこでどんなふうに出会ってもいいんだけど、過去の出会いも未来の出会いも、すべては学びである。そう考えると、人から受け取れるものが一気に増えます。

とくにいいのは、友人関係だ。友人のよい点は、何人とでも同時に付き合えるという点。「本当の友人」とよべるほどの友人は片手に収まってしまうのかもしれないが、それでも、同時につきあう友人から絞り込まれるものだ。友人とは、「じゃあね」とわかれたら、次に会うまで、とくに連絡しなくてもよい。「今何してるんだろう」なんて考えない。だから、何人と友人になっても大丈夫だ。恋人だと、こうはいかない。相手がいま何をしているかは、気になります。いつも相手のことを考えてしまう。「恋人は1人」は世間のルールでもあるが、そもそも自分の心のキャパシティからして、本気で付き合えるのは一人が限界だ。そういうわけで、大人になってからの「人からの学び」は、友人関係として拡がりやすい。

ここでひとつ意識するといいいのは、人は「共通点」ではなく、「相違点」で結びつくということです。共通点があるから話が弾んで、仲よくなれるんじゃないの、と思うかもしれない。それはそうです。でも、共通点だけだと、もの足りないものなんです。よい友人は、何かしら自分と違うところがあるひとだ、と思います。この世に二人として同じ人間はいないのだから、誰でも自分と、どこか違ってはいる。だから、相手が、自分と違うところがあるよい友人になるかどうかは、自分にかかっている。自分と違うところを、どう相手に見つけられるか。その違いを楽しめるか。そこがポイントなんです。

「学び」とは、知らなかったことを知ること。わからなかったことをわかることです。人間同士の「学び」とは、相手のなかに、自分が知らないこと、わからないことがあって、はじめて成り立つ。「違い」は、知らない、わからない、の源泉です。「違い」を見つけると、知らないことを知ること、わからないことをわかること、につながっていく。これが人間同士の「学び」と呼ばないで、どうしよう。

「違い」はまた、「敬意」の源泉でもある。「あの人は、自分と違って、こういうところが素敵」「あの人は、自分と違って、こういうことができてすごい」——大事なものは、これはお互いさまだ、としっかりわかっておくことです。そうでないと、人と自分を比べて落ち込むことになってしまう。もちろん、友人は選び選ばれるものだから、自分みがきを怠ってはいけないんだけど。自分にない何かが相手にはある。それと同様に、相手にない何かが自分にはある。そしてその「お互いに異なる何か」をもって、お互いをリスペクトしている。

相手が自分をリスペクトしてくれているに違いないと思うと、自分に対するポジティブなイメージ、自己肯定感が高まります。同様に自分が相手をリスペクトすることで、相手の自己肯定感も高まっているに違いない。このように「違い」で結びついた関係性を通じて、自分自身をポジティブにとらえることができるというのが、本当のよい友人関係です。

(橋爪大三郎『人間にとって教養とはなにか』より。一部改変)

無断転載・複製を禁ず